月刊
新翔タイムズ
第14号
新翔タイムズ編集室
発行・南紀州新聞社

災害に備えて
150人が参加
県高校生防災スクール

本校で「平成21年度和歌山県高校生防災スクール（東牟婁会場）」が行われた。当日は高校生79人、中学生10人のほか、本校教員や各校の引率教員、三輪崎及び佐野区の自主防災組織など一般の方々を含め約150人が参加した。

同スクールが開会し、あいさつ・日程説明・諸注意の後、東牟婁振興局の阿倍氏を講師に迎え、「東南海・南海地震に備えて」と題して講話を開いた。ここでは阪神淡路大震災や地震のメカニズム、家具の転倒防止などの地震に対する備えについて学習した。

その後、本校の生徒による炊き出し配給訓練が実施され、参加者はアルファ米で昼食をとった。また休憩の時間を利用して津波学習や起震車による地震体験をした。津波学習では、過去の津波の体験談を聞いたり、津波の破壊力を知るとともに、それから身を守るための学習をした。また起震車により、震度7の揺れを実感した。

午後は新宮市消防本部による普通救命講習Ⅰが実施された。講師は救急車が現場に到着するまでの救命処置の重要性やその方法について説明し、学習及び実践に取り組んだ。

閉会式では本校の七瀧校長から今回の防災スクールの講評があり、各校代表者に修了証が手渡された。

起震車を体験する生徒ら

簡易担架で搬送を体験

生活指導を強化
2学期始業式と校門指導

七瀧高至校長

2学期始業式が挙行された。生活指導を強化し、服装・頭髪を中心に生徒が校則を順守するよう教職員全員で指導していくことが決まり、この日から生徒指導部員を中心に10人以上の教職員が、保護者とともに校門指導を行った。

七瀧校長も訓示の中で、「夏休みの意識を引きずっている人は、意識を切り替えてほしい。9月4日には3年生の就職試験応募書類が発送され、16日からは就職試験が始まる。3年生全員が残らず進路を決めることが、学校としての大きな目標である。欠席や遅刻が多い人は、はなから企業、学校から相手にされない。きちんと授業を受けてほしい。そして体育祭、文化祭など行事の多いこの2学期、みなさんの真剣な取り組みを期待する」と述べた。

その後の全校集会では、阪口生徒指導部長も「きちんと指導を受け入れてほしい」と校則の順守を訴えた。

阪口生徒指導部長の話を聞く生徒ら

高・大・官連携の移民展に参加

和歌山大学観光学部と太地町と新翔高校との連携の一環として、同学部の学生3人（東悦子准教授ゼミ生）と新翔生6人（太地町在住の観光系科目選択生）が太地町からの移民に関する「移民展」の資料整理や準備を行った。「移民展」は11月下旬に同大学で行われる。

両校は今年2月に「観光教育に関する教育研究連携協定」を締結しており、今回は初の連携事業として、同大学が太地町で行う地域インターンシップに高校生が参加する形となった。

また準備に先立ち、太地町立くじらの博物館の櫻井敬人学芸員が「カルフォルニア州のターミナルアイランド」での移民生活や缶詰工場での労働について説明した。

キャリアアップ計画
本田技研鈴鹿製作所を訪問

2年生は「総合的な学習の時間」の「夏休みキャリアアップ計画」という活動の一つで三重県鈴鹿市にある本田技研鈴鹿製作所を訪問した。車ができるまでのDVDを見た後、工場内にて高精度の最新鋭機械、エンジンから完成車に至るまでの一貫した生産システムを見学した。

21人が参加し、バスで本校を出発。生徒たちは目の前で働く姿を見ることができ、将来の生き方や進路に対する意識をさらに深めるよい機会となった。約2時間の見学時間も短く感じられ、生徒にも好評で無事終了した。

企業訪問に参加した生徒ら

中学生教育体験学習
5系列の特徴紹介

新宮東牟婁地方の中学3年生11校計138人が教育体験学習に参加した。総合学科について、進学、就職など進路に応じて科目を選択できるシステムの解説と施設や設備の見学、実習体験で本校への理解を深めた。

七瀧校長は「総合学科は、進路や興味・関心に応じて学びたいことを学ぶ学科です」と5つの系列（教養・地域文化・建設技術・ビジネス・情報）を説明した。また観光科目体験学習では、高大連携による授業、地元観光協会との交流の様子を映像で映し、本校の特色をアピールした。この後、3班に分かれ校内見学や建設技術・商業の体験学習をした。

◆先生の紹介◆
山崎美穂先生

はじめまして。4月から本校に参りました。担当教科は英語科で、2年2組の副担任、カヌー部と茶道部の顧問をさせていただいております。

私は今年の3月に大学を卒業したばかりで、新翔高校が初めて勤務する学校です。御坊市出身なので、新宮で働くと決まったときは、「知らない土地で頑張っていけるのか」と、大変不安でした。しかし、実際に働き始めると、新翔の生徒たちは元気で明るく、教職員の方々も心優しい方ばかりで、不安な気持ちは思っていたよりもすぐになくなりました。今は初めて経験することばかりで、日々いろいろと悩むことが多いですが、生徒たちや教職員の方々に助けられながら毎日頑張っています。

さて、先日生徒に、「なんで先生になったん？」と質問されました。そのときはすぐにうまく答えられず、歯がゆい思いをしました。私は中学生のころから教師を目指してきました。たくさんの人と出会い、お互いを知ることで、自分は成長し続けられるし、相手に何か大切なことを感じてもらうことができるというところが、教師という仕事の魅力であると思います。私は今、カヌー部の生徒たちから、「一つのものに一生懸命取り組むことのすばらしさ、大切さ」を教えてもらっています。毎日厳しい練習に励み、少しでも速く漕げるようになろうと努力している姿にはいつも感心し、私も努力し続けることを忘れてはいけないなと感じます。

まだまだ未熟な私で、何か大切なことを感じてもらうような言動を今はなかなかできておらず、生徒たちから学ばせてもらってばかりです。ただ、教師として、生徒たちにこれだけは伝えたいということが一つあります。それは、「一つ一つの出会いを大切にしてほしい」ということです。相手がどんな人であれ、出会った人すべてから必ず学べることがあります。生徒たちが、広く物事を考えられる思いやりのある人間に成長するよう、私なりに手助けをしていければいいなと思います。これからもよろしくお願い致します。

弓道部
クラブ紹介

日本古来の武道、弓道を学ぶ弓道部は、本校が昭和38年に新宮商業高校として開校した時より設立されている。現在は部員数が9人（男子2人、女子7人）と少ないが、過去においてはインターハイ個人3位や、近畿大会団体優勝などの輝かしい伝統を持つ部である。体育系のクラブではあるが、精神的な面が強く出る競技でもある故、心・技・体の充実が強く要求される。

毎年11月に行われる新人戦は、本校弓道場を中心に新宮地区で開催され、県下の弓道部員が集まり、熱戦が繰り広げられる。弓道の大会は団体戦（3人組、5人組）と個人戦がある。試合では28㍍先の的にいかに矢を多く当てるかによって勝敗を競うが、段級の審査においては、基本の姿勢や動作、形が重要視される。

読み語りの留意点学ぶ
17人が養成講座を受講

「高校生よみかたりボランティア」を養成する講座が昨年同様、新宮高校との共同開催で、講師に橋本悦子先生、川口育子先生を迎えて開かれた。新宮高校から11人、本校より6人の計17人が参加し、絵本、紙芝居を読み語るときのさまざまな留意点について指導を受けた。

講義の後は実際に読んでみることになり、おのおの早速挑戦した。先生らは楽しい中にも要点を押さえた確実な指導を実施。修了した17人は「高校生よみかたりボランティア」として登録されることになり、2学期には、小学校へ交流活動に出掛ける予定となっている。

このボランティアは、本を読み聞かせる活動を通して、高校生が小学生と交流することにより、感動を共有することや交流活動の楽しさを味わうとともに、読書の意義やすばらしさを体得しようと6年前から始まった事業。

思春期講座

2年生を対象に新宮保健所の協力を得て、思春期講座を開催した。保健師から男女の性差、妊娠の成り立ち、避妊、性感染症、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）などについての講義を受けた。

この講座は、あふれる性情報の中で性に関する正しい知識を学び、仲間に情報を伝達しながら正しい行動を起こせるようにと毎年実施。保健委員と体育委員が参加したグループワークでは、男女別の4グループに分かれてピアエデュケーション（仲間同士の勉強会）を行い、避妊方法や高校生としての愛情表現のあり方などについて話し合った。

保健師は「自分自身を大切にするとともに、相手のことを思いやる心を持って行動してほしい」と締めくくった。

ピアエデュケーションで赤ちゃんの抱き方を学ぶ